

科目責任者 服部 豊示 (健康運動科学研究室)

## ■ 教育目的

薬剤師法の一部改正にともない、薬剤師は医療人の一員であることが明記されるとともに他の医療人や患者に適切な医薬品情報を提供することが義務づけられた。本講義の目的は、将来、薬剤師ないしは薬学研究者等として従事することになる医療機関等において患者や職場の同僚などと良好な対人関係を形成、維持するために有用な対人関係スキルやコミュニケーションスキルの学習を通して、言葉と態度による人との対応のあり方に関する認識を深めることにある。

## ■ 学習到達目標

1. 人間関係に関する基本的な知識やスキルについて理解する。(知識、技能、態度)
2. 人間関係の諸相に関する適切な対応方法について理解する。(知識、技能、態度)
3. 医療現場における人間関係のあり方について理解する。(知識、技能、態度)

## ■ 準備学習 (予習・復習)

予習：とくに必要ない。

復習：前回の講義内容を20分程度復習してから次回の講義に出席すること。

## ■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	オリエンテーション、および友達づくりのプロセス	薬学生が対人関係論や医療コミュニケーション学を学ぶ必要性、および二つの人間関係	B (1) -2-1
2	医療現場の人間関係 (1)	医薬品開発に係る人々	B (1) -3-3
3	医療現場の人間関係 (2)	医療スタッフと薬剤師の関係	A (3) -4-1~3
4	医療現場の人間関係 (3)	患者と薬剤師の関係	A (3) -3-1~3
5	人間関係の基礎理論	対人魅力、印象形成など	A (3) -2-1~3
6	人間理解の方法	自己理解、他者理解のための交流分析	A (3) -2-1
7	組織の人間関係	リーダーシップのとり方、敬語の使い方	A (3) -1-3 A (3) -4-1
8	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの構成要素、気持ちの伝え方・受け止め方	A (3) -1-1~3
9	高齢者や子供との接し方	高齢者や子供との接し方の基本	A (3) -1-3
10	人間関係のストレス対処法	論理療法や対人関係療法の考え方をセルフケアに活用する視点	
11	難しい人間関係の対処方法	難しい人の言動への対応、ストーカー	C14 (4) -1-1
12	患者対応のコミュニケーション様式について	カウンセリング、ティーチング、コーチングによる3つのコミュニケーションスタイルの使い分け	
13	リスク管理と人間関係	職場エラーの発生要因、及び予防型安全と多重安全への理解	C18 (1) -1-1~2
14	医療コミュニケーションに向かって	バーンアウトの予防、使用すべきでない言葉、患者心理の理解	B (1) -2-3
15	まとめ	まとめと補足	

## ■ 授業分担者

No. 1、6、8、10、12、14、15 服部 豊示 (健康運動科学)、No. 5、7、9、11、13 山田 俊二 (健康運動科学)、No. 2 渡邊 誠 (医薬品評価学)・門田 佳子 (実務実習担当)、No. 3 伊東 明彦 (治療評価学)、No. 4 町田 いづみ (医療コミュニケーション学)

## ■ 成績評価方法

試験 (90%) および受講態度 (10%) で総合評価を行う。

## ■ 教科書

プリントを配布する。

## ■ 参考書

講義時に紹介する。